

研究主題

充実感のある楽しい算数授業の創造

～ 確かな学力の定着・向上を目指して ～

北九州市立 則松小 学校
校長 村田 雅子

<論文要旨>

キーワード：確かな学力、学びの過程の統一、〇つけ法、意味付け復唱法

21世紀は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での基盤として、増々重要になってくる。学校教育でも「確かな学力」をはぐくみ、児童の学力向上が、今後の社会性等の拡大のための第一条件と考える。本校の児童の学力の実態は、全国学力・学習状況調査、及び観点別到達度学力検査の結果から、全国平均を下回っており、学力向上が喫緊の課題である。

そこで、これらの課題を改善すべく、本年度より研究主題を「充実感のある算数授業の創造 ～確かな学力の定着・向上を目指して～」とし、研究仮説を、「学習のねらいを明確にして、学びの過程を統一し、わかる・できる喜びを味わわせる評価をしていけば、児童の学びの意欲が高まり、確かな学力の定着・向上が図れるであろう。」と設定した。

仮説実証の方策として、①学習のねらいを明確にする。②学びの過程を統一する。③わかる・できる喜びを味わわせる評価の工夫をする。の3点とし、研究を推進していった。

その結果、問題解決のための見通しをもたせ、意欲付けを行うことができたこと、意味づけ復唱法で、学習すべき内容を確認したり、理解を深めたりすることができたこと、〇つけ法で、即時評価を行い、前向きな声かけやアドバイスをし、自力解決への意欲付けを行うことができたこと、少人数指導教員やその他の教員による連携により、計算力を高めることができたこと等の成果が表れた。

しかし、数学的な思考力・表現力を一層高めるためていくために、学年の発達段階に合った相互交流の目標を設定し、学び合い活動の充実を図り、児童主体の授業を確立していくこと等の課題が残った。それらの課題を解決し、今後も職員一丸となって、研究を推進していきたい。